

NUTAHARA Rally Team 参戦レポート



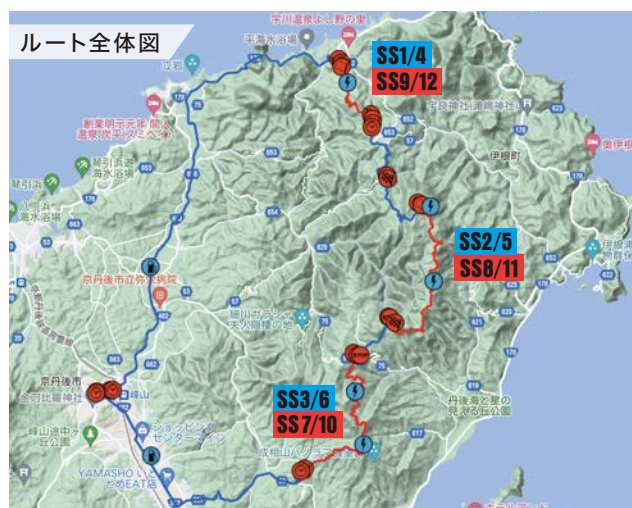
【大会概要】 日程：2022年5月20日(金)～5月22日(日)
 主催：モータースポーツクラブシンフォニーオブ京都 (SYMPHONY)
 場所：京都府京丹後市周辺
 路面：総走行距離 292.07 km / SS総距離 108.08 km / SS数 12 本 / 舗装 (アスファルト、ターマック等)

【LEG1】5月21日(土)
 天候/路面：曇り/ドライ

スタート	9:30
SS1 Taiko Hillclimb 1	10:13
SS2 Tsunotsuki 1	10:34
SS3 Nariai 1	10:57
サービスA	11:37
SS4 Taiko Hillclimb 2	13:10
SS5 Tsunotsuki 2	13:31
SS6 Nariai 2	13:54
サービスB	14:39
パルクフェルメ	15:32

【LEG2】5月22日(日)
 天候/路面：晴れ/ドライ

スタート	8:15
サービスC	8:23
SS7 Nariai Reverse1	9:09
SS8 Tsunotsuki Reverse1	9:35
SS9 Taiko Downhill 1	10:03
サービスD	10:58
SS10 Nariai Reverse 2	12:14
SS11 Tsunotsuki Reverse 2	12:40
SS12 Taiko Downhill 2	13:08
フィニッシュ	13:58



LEG1 Totals 146.94 km LEG2 Totals 145.13 km

開幕戦から続くターマック(舗装路)ラリー4戦目、前戦久万高原でのメカカルトラブルを対策して挑んだ。SS1から快調に上位3番手以上のタイムをマーク、SS4では0.1秒差ながら今期初のベストタイムを制す。続く残りのSSも2位から3位をキープし、1番手から21.2秒差の総合2番手で折り返した。最終日、気温と共に路面温度も徐々に上がる厳しいドライコンディション、車両やタイヤのセッティングを行い挑むも、2番手から4番手は僅差でせめぎ合う展開となったが、午後のSSではタイムが上がらず3番手から10.2秒のタイム差を広げられ、表彰台には届かず総合4位でフィニッシュした。

【正式結果】JN-1 クラス4位 エントリー13台/完走13台 ※詳細は「YUHO RALLY TANGO」公式ホームページ <http://rallytango.com/>

NO.	DRIVER	CO DRIVER	CLS	LEG1								LEG2				SS	TOTAL	POS		LEG1		LEG2			
				SS1	SS2	SS3	SS4	SS5	SS6	SS7	SS8	SS9	SS10	SS11	SS12			CLS	OV	TIME	CLS	OV	TIME	CLS	OV
2	Heikki Kovalainen	北川 紗衣	JN-1	2:26.4	6:39.8	10:24.0	2:24.4	6:31.4	10:16.4	9:52.4	8:08.7	2:42.8	9:53.1	8:07.0	2:42.2	1:20:08.6	1:20:08.6	1	1	38:42.4	1	1	41:26.2	1	1
3	福永 修	齊田 美早子	JN-1	2:26.6	6:41.1	10:35.5	2:26.0	6:36.8	10:20.3	9:56.6	8:13.4	2:43.5	10:00.0	8:11.3	2:42.6	1:20:53.7	1:20:53.7	2	2	39:06.3	3	3	41:47.4	2	2
1	勝田 範彦	木村 裕介	JN-1	2:28.0	6:40.4	10:30.4	2:26.8	6:35.8	10:25.0	10:00.9	8:15.0	2:45.4	9:57.9	8:14.7	2:44.9	1:21:05.2	1:21:05.2	3	3	39:06.4	4	4	41:58.8	3	3
4	奴田原 文雄	東 駿吾	JN-1	2:26.7	6:40.1	10:32.4	2:24.3	6:35.4	10:24.7	10:00.5	8:16.3	2:45.0	10:04.4	8:20.2	2:45.4	1:21:15.4	1:21:15.4	4	4	39:03.6	2	2	42:11.8	4	4
9	鎌田 卓麻	松本 俊一	JN-1	2:29.6	6:43.6	10:33.8	2:28.9	6:40.1	10:32.8	10:04.7	8:20.6	2:45.8	10:03.7	8:19.9	2:47.8	1:21:51.3	1:21:51.3	5	5	39:28.8	5	5	42:22.5	5	5
7	眞貝 知志	安藤 裕一	JN-1	2:27.0	6:46.6	10:38.8	2:26.1	6:46.8	10:33.4	10:06.7	8:21.3	2:44.9	10:08.2	8:21.4	2:45.1	1:22:06.3	1:22:06.3	6	6	39:38.7	6	6	42:27.6	6	6
5	新井 敏弘	田中 直哉	JN-1	2:29.5	6:48.8	10:42.9	2:29.4	6:46.2	10:36.2	10:07.5	8:23.0	2:48.7	10:07.4	8:22.2	2:48.2	1:22:30.0	1:22:30.0	7	7	39:53.0	7	7	42:37.0	7	7



【チーム体制】

車名：ADVAN カヤバ KTMS GRヤリス
 ドライバー：奴田原 文雄
 コドライバー：東 駿吾
 メカニック：山田、中沢、畦地
 K T M S：濱崎、飯島、松尾
 カヤバ：志村、内藤
 H K S：大竹
 マネージャー：田中

NUTAHARA Rally Team 参戦レポート



Dr. 奴田原 文雄 コメント

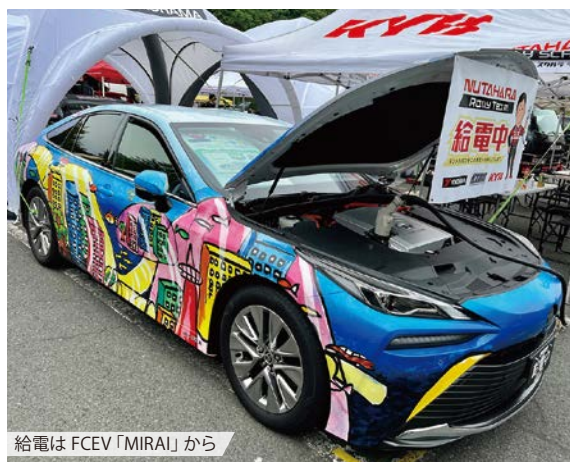
前戦のミッショントラブルは新開発パーツ投入ゆえの避けては通れないものですが、そこから短時間で問題点を洗い出しこの丹後ラリーに万全の体制でマシンを仕上げてくれたメカニックには感謝しかありません。初日にSS4では0.1秒ですが格上R5車両ファビアを上回るタイムを出すこともできました。2日目の天候は早朝から快晴。気温と路面温度の上昇は残念ながら我々に不利な条件となり、表彰台にはあと一歩かきませんでしたでしたがはっきりとマシンのポテンシャルを再確認できたラリーでした。

また今回のサービスへの給電は神戸トヨペット様の水素燃料電池車MIRAIをお借りしました。「MIRAI デザインコンテスト」にて最優秀賞に選ばれた小学4年生の作品をラッピングした車両で多くのギャラリーの注目を集めていました。ギャラリーステージも復活するなど少しずつコロナ以前のような活気が戻ってきましたので、次戦、群馬で開催のモンレー2022に向けてさらに活躍できるよう集中して挑んでいきます。

Co.Dr. 東 駿吾 コメント

本戦は天候に恵まれ、ギャラリーを入れて開催できるなどコロナウイルス感染拡大後の中では大変賑わいのあるラリーとなりました。コドライバーとしては、SS距離は前戦とあまり変わらないものの、リエゾンの所要時間が短いため時間管理が難しかった上、至らない箇所もありましたが、その中でドライバーをサポートしていくことができました。

次戦以降、暑さが増し、車両、クルーともに厳しい環境でのラリーが予想されますが、コンディションを調整してラリーに臨みたいと思います。



給電は FCEV「MIRAI」から



NUTAHARA Rally Team 参戦レポート



※写真は他にもございます。必要でしたらお申し付けください。

NUTAHARA × **YouTube**
Rally Team

NUTAHARA Rally Team 動画公開中です▶



Special Thanks

